明治期建設の石造アーチ橋

登録番号	第０３０号
名称(型式等)	巴橋
所在地	千葉県館山市犬石字巴 9-1 地先
設立(竣工)年	明治 39 (1906) 年

選定理由

館山市南部をほぼ東西に流れる巴川の下流に架かる道路橋です。関東に残る明治期建設の石造アーチ橋として高く評価されています。

巴橋は石造の橋で、大神宮側の親柱には、「明治三十九年」と彫られています。明治 39 (1906) 年に建設されたこのアーチ橋は岩盤上につくられ、長さ 11m、幅 3m の大きさです。方形に整えられた比較的大きな地元産の凝灰岩質の砂岩を、目が横に通るように積み上げる布積という工法で築かれ、橋の両側にある石垣に接続しています。

巴橋には 1 つのアーチしかありませんが、地元の人たちは、「眼鏡の橋」と呼んでいたとされています。残念ながら、図面を含めて資料は残っていませんが、地元犬石の職人島田岩吉が設計して築いた橋だと伝えられています。南房総市にある長尾橋も地元の石工森善九郎が築いたとされていますので、明治時代になって次々と導入された西洋の技術が、安房地方の職人の間にも普及していたことがよくわかります。

大正 12(1923)年の関東大震災で、巴川を逆流した津波は、すごい勢いで巴橋を飲み込み、上流へと流れ込んでいったとされていますが、石積みのこの橋は、津波の勢いにも負けませんでした。

関東に残る数少ない明治期建設の石造アーチ橋であることが高く評価されましたが、巴橋は 20 世紀の館山の歴史を物語る証人でもあります。平成 19 (2007) 年に国の登録有形文化財に登録されています。

写真１：上流から見た巴橋全景

写真２：巴橋のアーチ

参考資料：館山市ホームページ